

ワクチン接種 2月開始へ準備

優先対象の医療従事者から

新型コロナウイルスのワクチンについて、厚生労働省は25日、優先接種の対象者が、高齢者や持病のある人ら約5千万人になると見通しを明らかにした。高齢者は「来年度中に65歳以上となる人」としている。接種は2月下旬、医療従事者の一部から始める方向で準備を進める。

ワクチンは無料で接種できる。政府はすでに、①医療従事者②高齢者③持病がある人・高齢者施設などの職員——の順番で接種を始めると方針を示している。この日の厚労省の専門家による部会で示された資料では、優先接種の対象となる①の医療従事者（薬剤

師や救急隊員、保健所・検疫所の職員らも含む）は約400万人。このうち、まず同意を得られた約1万人に先行して接種する。副反応などの情報を集め、接種後に一定期間、健診状態を報告してもらう。②の高齢者は約3600万人。ワクチンの供給量に

応じて、60～64歳の人（約750万人）も③の持病がある人らと同時期に接種を始めることも検討する。

③の持病に該当するのは

対象者に持病があるかどうか事前に把握できなかったり、接種を希望する人が事前に予診票に記入して自己申告する。高齢者施設の職

員は直接利用者に接する人で、職種やサービスの種類は限定しない。約200万人になる。一方、妊娠はワクチンの有効性と安全性に感染した場合の重症化リスクを高めるとされ、BMI（体格指数）が30以上の人も対象となった。20～64歳で約820万人になる見通しという。

接種を行う自治体側は、対象者に持病があるかどうか事前に把握できなかったり、接種を希望する人が事前に予診票に記入して自己申告する。高齢者施設の職員は直接利用者に接する人で、職種やサービスの種類は限定しない。約200万人になる。一方、妊娠はワクチンの有効性と安全性に感染した場合の重症化リスクを高めるとされ、BMI（体格指数）が30以上の人も対象となった。20～64歳で約820万人になる見通しという。